



国鉄新潟

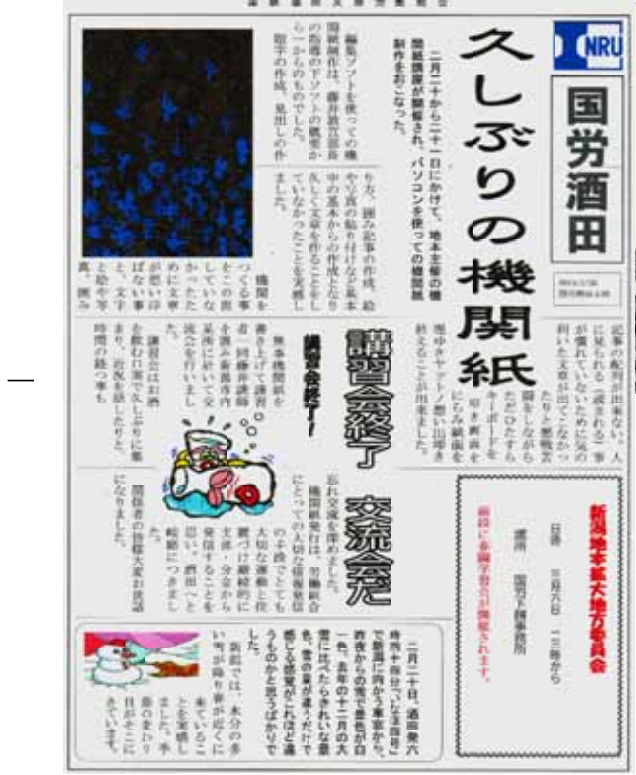
NO. 683
発行 10・3月1日
国鉄労働組合新潟地方本部
発行責任者 関川 和彦
編集責任者 教 宣 部

機関紙の発行をめざそう

地本機関紙講座を二月二〇日に地本会議室で開催しました。参加者は全体で五名でしたが、楽しく行いました。

一〇時より開会し、それぞれの職場の現状や機関紙の企画・編集発行についての悩みや、問題点など出されました。

現在の各支部や分会の機関紙の発行が、定期発行できない状況ですが、どこに問題点があるのか、どう改善したら機関紙が発行できるのか、意見が出されました。



継続して発行できない
組合員が、点在や勤務状況の違いで集まりにくい。
一回・二回の発行は出来るが継続した発行が出来ない。

機関紙の企画・編集がパソコンでの作業になり、わかりにくい。

地本機関紙講座 2月20日開く

など出されました。
機関紙の編集が、手書きからパソコンでの編集に変わり、使いこなすまでかなり時間が、かかります。便利ですが作業が複雑になりました。

題字の設定・見出し・写真の挿入・コラムの設定など、操作のしかたなどの手順をやりました。パソコン編集が、初めての組合員も出席していましたが、機関紙を完成させるまでがんばりました。

午後からは、実際にパソコンを使って編集作業をしました。基本的な操作方法から始めて、機関紙を編集するまでやりました。

これから春闘・職場の闘い・組織拡大など多くの取り組み・課題があります。情宣活動は、紙の弾丸と言われています。国労の運動など広く宣伝し、他労組の組合員へも訴えていきたいと思います。

職場で発行体制を

「2・16集会」雪まじりの雨の中 4000名結集



二月十六日、東京日比谷野外音楽堂で開かれた「JR不採用問題 解決へ2・16中央集会」は雪まじりの雨の中、約4000名(新潟から七名)を集集して大成功を収めました。

十八時、会場の日比谷野外音楽堂には、あいにくの小雨まじりの大候にもかわらず、続々と参加者たちが集まり、会場は華のはなでうめら



当面する行動

3月6日 10時～
春闘学習会
13時～
第116回拡大地方委員会
会場はどちらも下越事務所
終了後、懇親会があります
3月15日 11時～
3・15貨物総行動
水道橋 全水道会館
4月18日
ダンプトラックパレード



二十四年ならぬ二十三年
全力を尽くす

さんの顔も見えませぬ。
昨年末から今年にかけて、解決に向けて政治が大きく動き出しました。与党三党による解決素案をまとめる年度内解決を目指すという表明を受けて、いよいよ止念場に入ってきました。
「二十三年が二十四年にならない

れました。
この日、東京は日中から寒く、夕方には雪に変わるといふ予報。参加者たちは皆厚着をして臨みました。大部分が東京、関東近県の部隊でしたが、北海道、九州からも闘争団と家族たちが大勢参加していました。函館の池田さん、音威子府の闘野

対処していきたい

政府・国土交通省が解決に向けた考え方を議論。一月二十五日に、四者四団体は、与党三党に「路頭に迷わせない解決」要求の提出と説明を行いました。
また、一月十九日には、前原国土交通大臣が、記者からの質問に「長年解決していない問題、一日も早い解決が望ましい。与党でいま、動かれています」ということでございますので、私はこちらの何らかの要請と要望があれば対処していきたい」とコメントし、一月二十七日、鉄道・運輸



ように各党が力をあわせて解決に全力を尽くす」といふ昨年の「11・26集会」の発言。十二月二十五日には、与党三党が鉄道・運輸機構に「話し合いを開始するよう」要請しました。本年、一月十三日には、与党

編集後記

地本機関紙講座を二月二〇日に開催することができました。出席した組合員の方々、ご苦勞様でした。
機関紙は手書きから、今はパソコンでの編集へと大きく変わりました。編集・企画などソフトに慣れるまで少し時間がかかりますが、覚えてしまえば、むしろ便利だと感じると思っています。
出席した組合員の中で初めてという人もいましたが、基本的な作業については、覚えていたかと思えます。まずは、一号発行へ頑張りましょう！



機構は四者四団体の申し入れに対し、「政府・政治の判断に促す」と答えています。
集会は最後に、「強固な団結のもと、世論と運動を盛り上げ、納得できる解決・雇用・年金・解決金」を勝ち取るため力をあわせて奮闘しよう」と訴え閉幕しました。